

旭区社協会員 朗読録音ボランティア「なみの会」



厚生労働大臣表彰受賞!!

令和元年11月22日に開催された全国社会福祉大会にて、「朗読録音ボランティア なみの会」(以下「なみの会」)が厚生労働大臣表彰を受賞されました。なみの会は、発足から40年近く、視覚障害のあるリスナーのために音声訳活動を行っています。現在、約20名の会員が所属し、約40名のリスナーの方々生活に役立つ内容を録音したCDを届けています。



「なみの会」のみなさんと旭区視覚障害者福祉協会のみなさん



活動風景

喜びの声

先輩方が会を始めて40年ほど経つ今、このような大きな賞をいただき、会員一同大変嬉しく思っております。カセットテープで始めた録音は、今はパソコンを使ったデジタル録音になり、試行錯誤しながらようやく軌道に乗り始めてきました。今回の受賞を励みに、これからもリスナーに寄り添い、心を込めた音声訳活動を続けていきたいと思っております。
(なみの会代表 ● 木村みさ枝)

「なみの会」について詳しくはこちらへアクセスしてください。



いきいき宣言(第101号~)の音声訳も「なみの会」が制作しています。ご希望の方は旭区社会福祉協議会(045-392-1123)までご連絡ください。

視覚障害者の方へのボランティア活動には、音声訳・点訳(墨字を点字にして伝える)・外出時の誘導など、様々な活動があります。ご関心のある方は旭区ボランティアセンター(045-392-1133)までお問い合わせください。

令和2年度 あさひふれあい助成金説明会のご案内

区内で地域福祉活動を実施するボランティアグループ・市民活動団体、障害者等当事者団体などに助成を行います。詳しくは説明会にご参加ください。なお事前の申し込みは不要です。

- 日時 **3月13日(金) 10:00~12:00**
3月17日(火) 14:00~16:00
3月18日(水) 18:00~20:00

場所 旭区福祉保健活動拠点「ぱれっと旭」2階多目的研修室

内容 助成金額・助成区分・申し込み受付期間・申請書の記入方法など

※説明内容はどの回も同じです。 ※申請書等は説明会当日に配布します。

善意銀行にご寄付いただいた方々 (順不同・敬称略)

令和元年8月1日~12月31日

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

- (金品寄付) 荻窪 邦昭/北村 勝利/伊藤 志壽江/匿名2名
一般社団法人 保土ヶ谷青色申告会/横浜市旭区老人クラブ連合会 女性委員会
都岡町内会チャリティ餅つき大会/ヨガサークル ロータス/ヘアメイクファンジョン
公益社団法人 神奈川県LPガス協会 横浜旭保土ヶ谷支部/旭区障害児者団体連絡会
(物品寄付) 神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部



善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、必要などころ、または希望された区内福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆さまの善意を広げていく事業のことです。

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222
<http://www.palletasahi.jp/> 旭区社協

●アクセス●
相鉄線「鶴ヶ峰駅」北口より徒歩8分



旭区社協だより No. 103

令和2年3月1日発行

あさひ 共に支えられ 生きていく

いきいき宣言

<http://www.palletasahi.jp/>



この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています。

旭区社協 音声訳版もあります

特集

地域共生社会の実現に向けた地域づくり

~「福祉教育」を通して~

私たちの地域にはさまざまな人が暮らしています。誰もが安心して自分らしく暮らし、共に支えられ生きていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けて、さまざまな取組が実践されています。

今回特集する福祉教育とは、地域の中で暮らす誰もがふだんのくらしのしあわせについて考え、感じとる学びのことです。

一人ひとりの考え方、生き方に共感し、互いの違いを理解する大切さを学ぶことができます。そして、共に生きるためのきっかけとなります。



共感

違いの理解

共に生きる

今回のいきいき宣言では、小学校と地域の高齢者、障害者、障害者施設の取組についてご紹介します。詳しくは中面へ



共に支えられ生きていく ～福祉教育から育まれる福祉の心～



自分たちにもできることはたくさんある!

善部小学校3年～6年×障害当事者 令和元年11月28日

視覚障害当事者の小泉さんは、針先と文字盤の目盛に触れることで時間がわかる時計や点字パソコンなどがあることを教えてくれました。一方で、文字だけで情報を伝えるチラシやパッケージなど、まだまだ困ることが多いことも教えてくれました。

児童たちは、声かけや自転車で道をふさがないなど、自分たちにも困っている方へのお手伝いができることを学びました。

最後に、「私とじゃんけんするためにはどうしたらいいのかな?」と問いかけた小泉さんに「声をだすと一緒にできる!」と児童たちは即答。早速、今日の学びを活かしていました。



「そろそろ角です。左に曲がります」と声かけしながら、小泉さんと体育館を歩きました。



みんなが障害なく生活するためにはどうしたら良いかという問いに、答えを出し合う姿に感動しました。互いの違いを理解し合い配慮することで、まずは自分の家族やクラスで障害(困ること)を作らないことを実践できたら、その先の社会でも多様な人への配慮ができる人になれる。

View-Net神奈川(注1)理事長 小泉さん

一緒に過ごすことで学ぶ

本宿小学校3年生×地域活動ホームふたまたがわ

令和元年11月18日・19日・22日

「地域活動ホームふたまたがわ(注2)」の障害のあるメンバーさんと職員から、福祉車両やはし・皿などの自助具、普段の活動の様子などを聞き、ちょっとした工夫やアイデアがあると、みんなと同じように暮らせると学びました。全国身体障害者スポーツ大会の電動車いすの部門で優勝したメンバーさんの車いすの操作を見て、「カッコいいお兄さん!」と声を上げ、目を輝かせていました。



優勝したメンバーさんの操作に児童たちは引き込まれていました。



メンバーさんが児童たちに器具の使い方を教えてくれました。

メンバーさんたちは、どうやって移動しているの?福祉車両を見て学びました。

地域活動ホームふたまたがわの職員感想

- 施設の紹介や発表をしたことでメンバーのみさんが役割をもち、自信をもって活躍する機会となりました。
- みんなが楽しく一緒にかかわることができました。これをきっかけに「掃除をしたいです」「メンバーさんが作っていたランタンを作りたい」と児童たちから声をもらい、日頃のかかわりをもつきっかけになりました。

福祉教育をきっかけに深まるつながり

二俣川小学校4年生×二俣川地区の高齢者のみなさん 令和元年11月12日・29日



車いすや高齢者のことを知りたいという児童からの意見をきっかけに、車いす体験や高齢者疑似体験をし、老人クラブのみなさんとの交流会をしました。児童たちは、「自分たちにもできることがあることがわかりました」「普段は関わる機会が少ないので一緒にいられて楽しかったです」「高齢者はいろいろなことを知っている人だとわかりました」との感想がありました。

福祉教育が地域の高齢者とつながるきっかけになりました。



子どものころからさまざまな人と接することで、普段の生活の中で顔がつながり、お互いを思いやるのが自然とできるようになります。二俣川地区には障害者施設もあります。みんなが街中で会ったとき気持ちよくあいさつし合え、共に支え合える街にしていきたいです。

二俣川地区連合・地区社協 内田会長

老人会として、社会の役に立ちたいという気持ちから福祉教育に携わり、交流ができました。高齢者のできないことだけではなく、できることを知ってもらうことで、地域で共に暮らしていることを感じてほしいです。

二俣川地区老人会 山田会長



手助けしたらできることも増えるね!声をかけながら友達、地域の人と協力しました。



最初は緊張していましたが、笑顔あふれる交流会になりました。

今後も地域共生社会の実現に向けて福祉教育に取り組んでいきます!!



注1) 神奈川県域を中心に視覚障害当事者及び視覚障害に係る支援者、研究者で構成されている団体。

注2) 幼児から大人まで、障害や年齢を問わずにさまざまな暮らしの支援をしている施設。障害のある方が日中に通い、日常生活上の支援を受けることができる場所。